

パスワードの話

- 自己紹介
- パスワードの保存
- パスワードの話題いろいろ (TODO)
 - 攻撃
 - 定期更新
 - ユーザ側での管理
 - 強度
 - マスキング
- まとめ

TODO: s5での体裁

自己紹介

- ECナビ システム本部 春山征吾 @haruyama
- セキュリティ
 - OpenSSH (本x2, [OpenSSH情報](#))
 - [暗号技術大全](#)
 - 18章(ハッシュ), 20章(電子署名)翻訳担当
- 全文検索システム Apache Solrの勉強会開催

資料

- 本資料

- http://haruyama.github.com/445_14_20101211/

- <http://bit.ly/fJP5du>

- <http://goo.gl/fKzJ5>

本講演の経緯

- 第1回神泉セキュリティ勉強会 にて、パスワードの保存(10分)の話を講演
- @ikepyon さんから講演依頼
 - 時間は1時間
- まずご要望を満たすために「パスワードの保存」の話をして、その後その他のテーマの話をします。

パスワードの保存

- パスワード保存の常識(?)
- Unix的パスワード保存
 - 概要
 - ハッシュ
 - Salt
 - Stretch
- Webシステムでのパスワード保存

パスワード保存の常識(?)

パスワードの保存は,

「saltを付けてハッシュしろ」

とよく言われている.

保存

- saltを付けてハッシュ化

- 保存された情報からはパスワードは復元困難

照合

- 入力値にsaltを付けてハッシュ化. 保存情報と照合

TODD?: 図

Unix的パスワード保存

GNU/Linuxの場合

- /etc/shadow にパスワード情報を保存

形式

`idsalt$hashed`

例

`$6$3d1ahu0b$KiH....` (略)

- id: ハッシュ(後述)の識別子
 - 1 => MD5, 5 => SHA-256 6 => SHA-512
- salt: ソルト, お塩
- hashed: ハッシュ化されたパスワード情報

ハッシュとは？

暗号学的ハッシュ関数 - Wikipedia より(一部変更)

- 与えられたメッセージに対してハッシュ値を容易に計算できる。
- ハッシュ値から元のメッセージを得ることが事実上不可能であること。
 - 一方向性
- 衝突耐性 を持つこと
- 例: MD5, SHA1, SHA-256, 512

salt(ソルト, お塩)とは？

ハッシュの値をかきまぜる「お塩」.

なぜ salt は必要なのか

TODO: 説明追加

- レインボーテーブル
 - ハッシュ値から平文が得られるテーブル
- 例
 - Free Rainbow Tables » Distributed Rainbow Table Generation » LM, NTLM, MD5, SHA1, HALFLMCHALL, MSCACHE
 - Ophcrack
 - レインボーテーブルを利用した Windows のパスワードクラックツール

なぜ salt

はユーザ毎に違う必要があるか

- ユーザに共通のsaltを用いると
同じパスワードを利用する人に対して
同じパスワード情報が生成されてしまう
- ユーザごとに異なる必要がある
 - ランダムでなくてもよい

saltのサイズ

- 伝統的なunix: 12bit
- 現在のGNU/Linux: 96bit
- CRYPTOGRAPHY ENGINEERING: ハッシュのサイズ

実際の処理

- CRYPTOGRAPHY ENGINEERING p304 の方式

PHP風の言語で記述

```
$x = '' ;  
for($i = 0; $i < $iter; ++$i) {  
    $x = hash($x . $password . $salt);  
}
```

- [crypt() アルゴリズム解析 (MD5バージョン)]
どちらも ハッシュを繰り返し利用している(stretch)

stretchとは？

- ハッシュを繰り返し利用することで、ハッシュ値を求めるのに必要な時間を増大させる
 - 攻撃に時間がかかるようになる
 - 実質的にパスワード文字数を伸ばす (stretchする) 効果
- どれくらい繰り返されているか
 - `crypt()` MD5の場合: 1000回
 - `crypt()` SHA-256, 512の場合: (デフォルト) 5000回
 - CRYPTOGRAPHY ENGINEERING での例:
 2^{20} (約100万) 回

stretchの効果(1)

stretchの効果をはかるために、PHPの hash 拡張で SHA-256を繰り返し呼ぶコードを用いた計測をした

- 方式は CRYPTOGRAPHY ENGINEERING のもの
- パスワード 10byte
- salt 32byte
- CPU 1コアのみ利用

Intel(R) Core(TM) i7 CPU 860 @ 2.80GHz で 1秒に SHA-256を約50万回計算できた.

stretchの効果(2)

- ・パスワードの文字種を64種とすると

文字数	総パスワード数
n	64^n
3	26万
4	1677万
5	10億
6	687億
7	4兆
8	281兆

stretchの効果(3)

1CPU(8コア)のPCでパスワード解析する場合を考察

- 1日3456億回 計算可能
 - stretch がないと...
 - 6文字が 0.2日, 7文字が 13日
- 1000回 stretch すると
 - 1日3.5億回パスワードを計算可能
 - 5文字が 3日, 6文字だと 199日

stretchの効果(4)

MD5だと... Intel(R) Core(TM) i7 CPU 860 @ 2.80GHz
で 1秒に 約140万回計算できた.

- SHA-256の約3倍速い
 - (私のPCでは)同じ回数stretchしても3倍弱い
- stretchの強度は, (回数) x (1回あたりの実行時間)
で考えなければならない

方式の保存

現在は問題なくても、将来問題になるかもしれない

- ハッシュ関数自体
- ハッシュ化の方法
- stretch回数

長く運用するシステムでは、パスワード保存方式をパスワード情報と共に保存する必要がある。

なぜUnixはこの方式なのか？

- なぜ可逆な暗号化ではないのか？
 - 鍵を管理するのが難しい。
 - 以下からパスワード情報と鍵が漏れるかもしれない
 - バックアップファイル
 - システムの脆弱性
 - 別のOSでブート
 - 物理的な攻撃

Unix的パスワード保存まとめ

- パスワードはハッシュ化して保存
 - この時 salt と stretch を利用
- メリット
 - 鍵管理が不要
 - 生パスワードを復元できない
- デメリット
 - 弱いパスワードが記録された情報だけで破れる

Webシステムでは？

- 通常WebサーバとDBサーバは物理的に分離されている
 - Unixよりもパスワード情報と鍵が共に漏洩するリスクは低いだろう。
 - ちゃんとした暗号方式と鍵を利用すれば、攻撃者が鍵を入手できない場合 鍵の強度 == パスワード情報の強度となる
 - パスワードの長さに関係ない
 - もちろん、鍵管理のコストは無視できない
 - 漏洩，改竄，紛失....

TODO: 図

Webシステムでのリスク

パスワード情報の保存に関するリスクのみ挙げる

- SQLインジェクションなどによる
パスワード情報の漏洩
- バックアップファイル, 実サーバ,
廃棄サーバなどからのパスワード情報の漏洩
- 開発者/運用者によるパスワード情報の漏洩/悪用

鍵を用いる場合の手法案

- 共通鍵暗号
- ハッシュ+暗号
- 鍵付きハッシュ

共通鍵暗号

共通鍵暗号をハッシュとして用いる
パスワード保存法もあるが、
ここではパスワード情報を暗号化する場合を考察

- メリット
 - ちゃんと暗号化し鍵が安全ならば、
弱いパスワードもパスワード情報だけでは破れない
- デメリット
 - 鍵があればパスワードを復元できる
 - 鍵の管理の必要がある

ハッシュ+暗号

Unix的にハッシュ化したあとで暗号化

- メリット
 - ちゃんと暗号化し鍵が安全ならば、
弱いパスワードもパスワード情報だけでは破れない
 - 鍵を保持するものでも生パスワードを復元できない
- デメリット
 - 鍵の管理の必要がある

鍵付きハッシュ(1)

鍵情報とパスワードを組合せてハッシュ

- saltの一部を鍵に?
 - 単純に鍵と平文を文字列連結をしたものをハッシュするMAC(メッセージ認証コード)は期待通りの強度がないという論文

On the Security of Two MAC Algorithms

- hash(\$key . \$salt . \$password)
などはMACとして用いないほうがよい.
- パスワード保存の場合では関係ないと思われるが、あえて利用する理由はない

鍵付きハッシュ(2)

- HMACには前述の問題はない
- CRAM-MD5はHMACを元にしたパスワード情報保持をしている。
- チャレンジレスポンス認証用の情報保持なので、応用していいかは不明

鍵付きハッシュ(3)

- メリット
 - ちゃんとしたアルゴリズムを用いて鍵が安全ならば、弱いパスワードも記録された情報だけでは破れない
 - 「ちゃんと」しているかは「ちゃんと」した人に確認してほしい
 - 鍵を保持するものでも生パスワードを復元できない
- デメリット
 - 鍵の管理の必要がある

パスワード保存方式の比較

方式	弱パスワードの保護	生パスワード	鍵管理
そのまま保存	不可能	そのまま	不必要
Unix的	stretchで対応	復元不可能	不必要
暗号	可能	復元可能	必要
ハッシュ+暗号	可能	復元不可能	必要
鍵+ハッシュ	可能	復元不可能	必要

個人的には、
鍵の管理が面倒なのでUnix的でよいと考えています。

パスワードの保存 まとめ

- Unix的パスワード保存を解説
- Webシステムでのパスワード保存を考察

参考文献

man 3 crypt

Manpage of CRYPT

CRYPTOGRAPHY ENGINEERING

ISBN-13: 978-0470474242

認証技術 パスワードから公開鍵まで

ISBN-13: 978-4274065163